

阪南市埋蔵文化財報告 35

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX

2005年
阪南市教育委員会

はしがき

阪南市内には、現在埋蔵文化財の包蔵地が約60ヶ所あります。なかでも、縄文時代の土坑墓群が確認された向出遺跡は、西日本の同時代の遺跡としては屈指のものとされています。またこの他、本市の特徴的な遺跡としては、本市箱作、桑畑等に分布する石切場跡があります。これらの石切場跡は、近世期に地元の主要産業であった「和泉砂岩」を採取した跡で、本市特有の遺跡として知られています。

さて、本書はこれらの埋蔵文化財包蔵地内で、個人住宅建築等の土木工事に伴い、事前に実施した発掘調査の報告書です。これらの調査は、いずれも小規模な調査ですが、文化財保護の観点から国庫補助事業として例年実施しています。

今年度は、以下に11遺跡で実施した22ヶ所の報告を行います。上述のように、小規模な調査ばかりでしたが、向出遺跡では縄文時代における遺構がどのような範囲で拡がっているかを確認するうえで、ひとつの手掛かりとなるような成果がみられました。

末筆になりましたが、関係の土地所有者の方々には、ご協力をたまわりましたことに、感謝申し上げます。

2005年3月
阪南市教育委員会
教育長 川村一郎



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は阪南市教育委員会生涯学習推進課が平成16年度国庫補助事業として計画実施した阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 調査は生涯学習部生涯学習推進課主査三好義三、田中早苗、上野一仁及び松本武志を担当して実施した。
3. 本書内に示した標高は、T.P.であり、方位は規制の地形図などを使用したものを除いて磁北である。
4. 調査にあたっては土地所有者など、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。また、発掘調査、整理作業には以下の従事者があつた。
6. 本調査における記録は、実測図、写真、カラースライドなどに保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

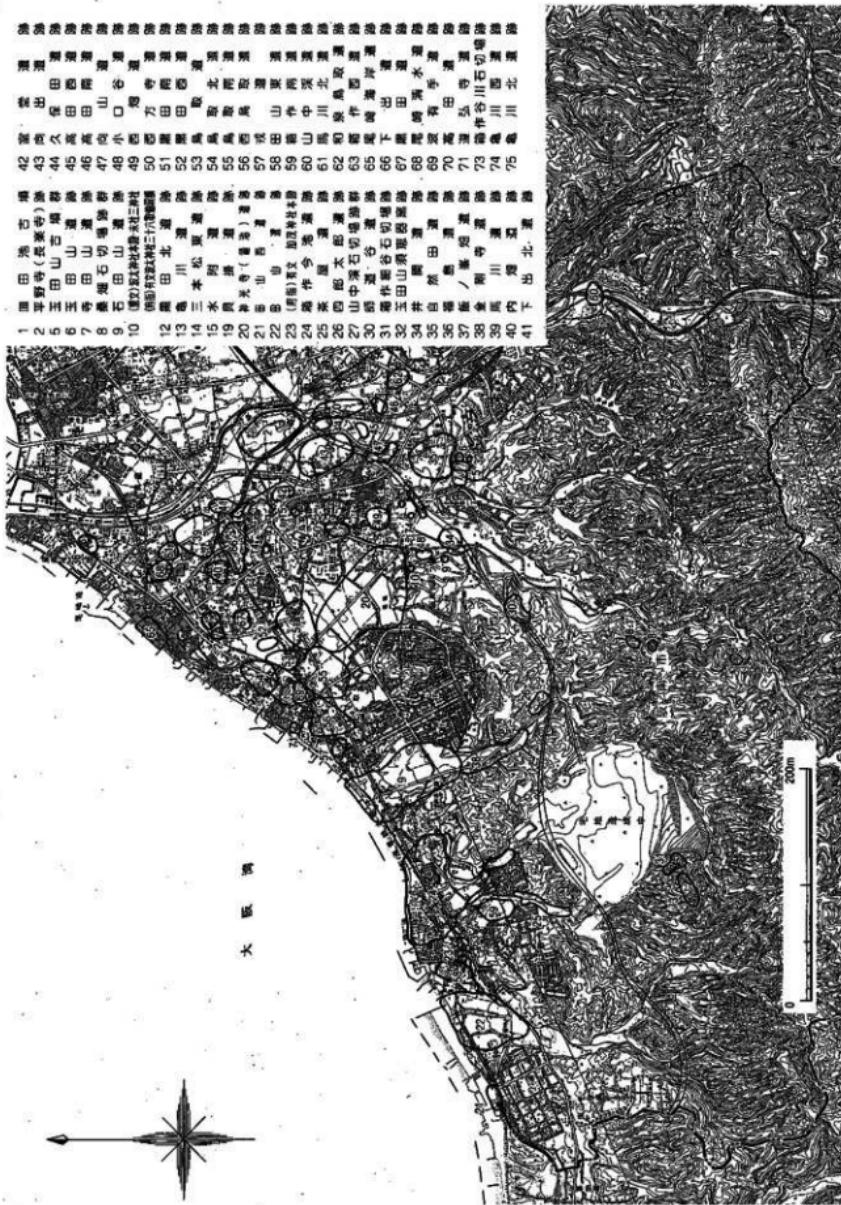
(調査従事者)

根無吉隆、南竹千代、大家 喬、和田旬世、井上祥子、井上 進、島田万帆、中寺幸子、丹羽明子、広島良子、頭師康一郎、大槻隆雄、中寺邦利、遠山法城、藤林達也

目 次

第1章 調査の成果

第1節 尾崎海岸遺跡	(1) 04-1区	5
	(2) 04-2区	
第2節 下出遺跡	(1) 04-1区	9
第3節 黒田南遺跡	(1) 04-1区	10
第4節 内畠遺跡	(1) 04-1区	11
第5節 烏取南遺跡	(1) 03-1区	12
	(2) 04-2区	
第6節 神光寺（蓮池）遺跡	(1) 03-3区	14
	(2) 03-4区	
	(3) 03-5区	
	(4) 04-1区	
	(5) 04-2区	
	(6) 04-3区	
	(7) 04-4区	
	(8) 04-8区	
第7節 向出遺跡	(1) 03-3区	18
第8節 高田南遺跡	(1) 03-1区	27
第9節 貝掛遺跡	(1) 04-3区	28
第10節 箱作今池遺跡	(1) 04-2区	29
	(2) 04-3区	
	(3) 04-4区	
第11節 田山東遺跡	(1) 03-2区	31
第2章 まとめ		32
報告抄録		33
写真図版		



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1節 尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は既往の調査で、弥生時代末期から古墳時代初頭の製塩土器が大量に出土している。また、周辺には孝子越(浜)街道に沿って発達した江戸時代の街屋が現在も残り、上層からは当時の遺構、遺物が出土している。

(1) 04-1区

a. 調査の概要 (第3～6図)

調査地は尾崎海岸遺跡の北西部、1990年の調査で製塩土器が大量に出土した地点から北西に約140mの地点に位置する。

調査は調査区内に $1.8\text{m} \times 1.5\text{m}$ のトレンチを2ヶ所設定して実施した。

基本層序は第1層暗灰色土、第2層灰色砂、第3層黄茶色砂である。

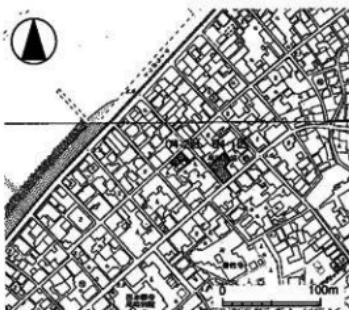
遺構は検出されず、遺物は第1層から土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、寛永通宝など、第2層から弥生土器が出土した。弥生土器は小片が1点のみで、図示できなかった。

1は土師質土器の炮烙、2は土師質土器の行火。3～6は陶器で3は備前の擂鉢、4は堺焼の擂鉢、5・6は管状土錘である。7～11は磁器で7は伊万里の筒型碗、8は伊万里の皿、9～11は波佐見で、9・10は碗、11は猪口である。12～14は瓦で12・13が軒丸瓦、14が軒棧瓦である。15は寛永通宝である。寛永4文銭で背面は21波である。全て第1層から出土した。

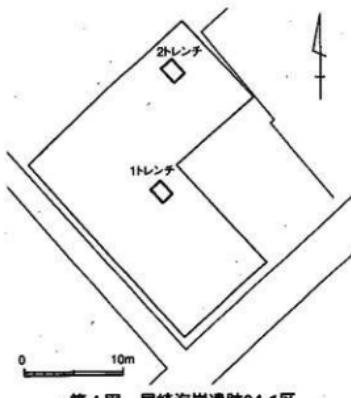
(2) 04-2区

a. 調査の概要 (第3・7～9図)

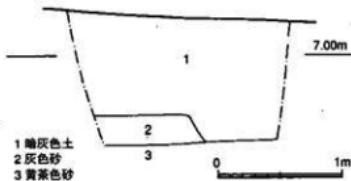
調査区は04-1区の東約30mに位置し、調査は調査区内に $2.4\text{m} \times 2.0\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。



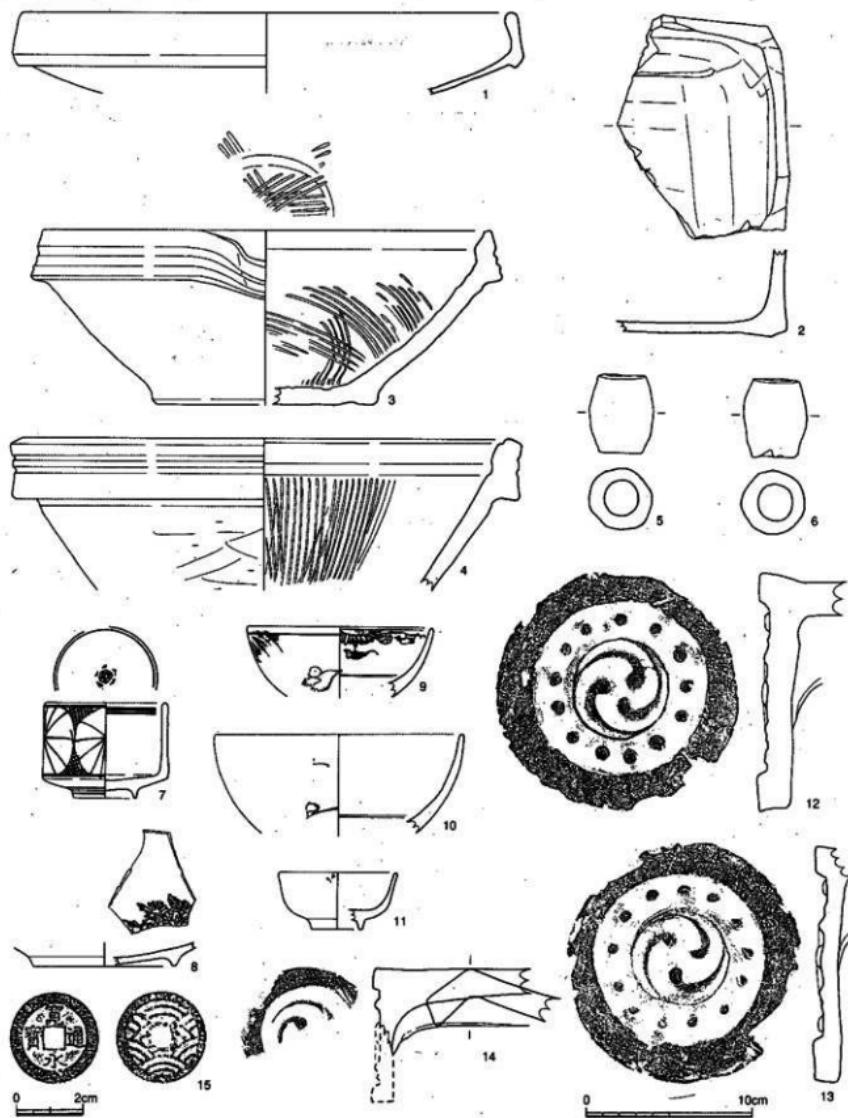
第3図 尾崎海岸遺跡調査区位置図



第4図 尾崎海岸遺跡04-1区
トレンチ位置図



第5図 尾崎海岸遺跡04-1区
トレンチ北側断面図

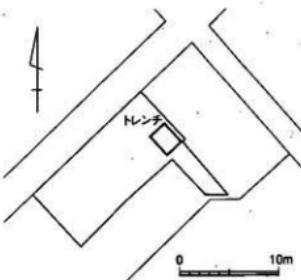


第6図 尾崎海岸遺跡04-1区 出土遺物

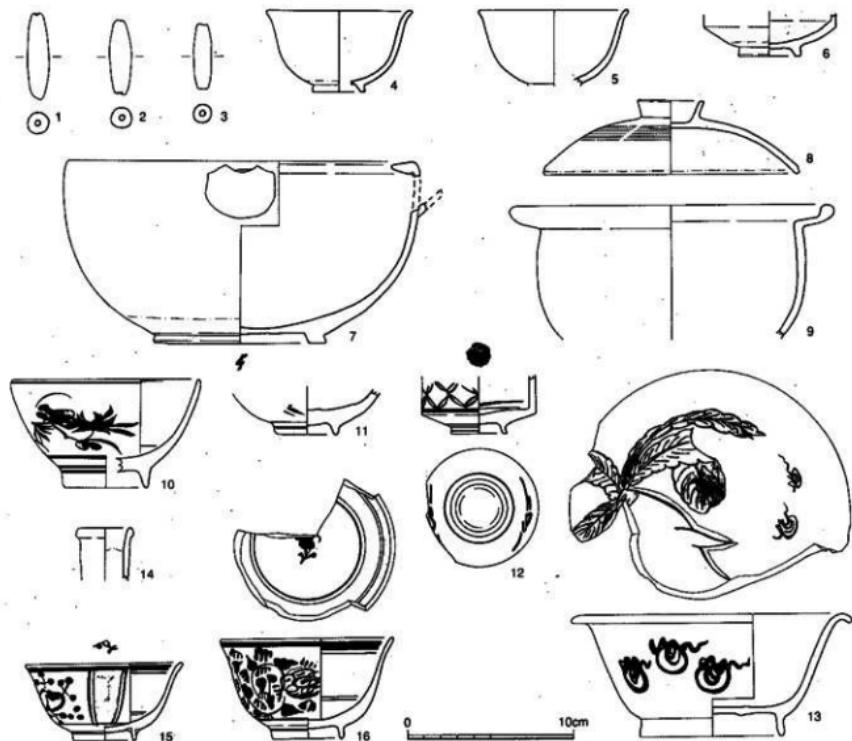
基本層序は第1層暗灰色土、第2層淡黄色砂である。遺構は検出されず、遺物は第1層、第2層からそれぞれ土師質土器、陶器、磁器、近世瓦、石製品などが出土した。

図化した遺物は、以下の通りである。

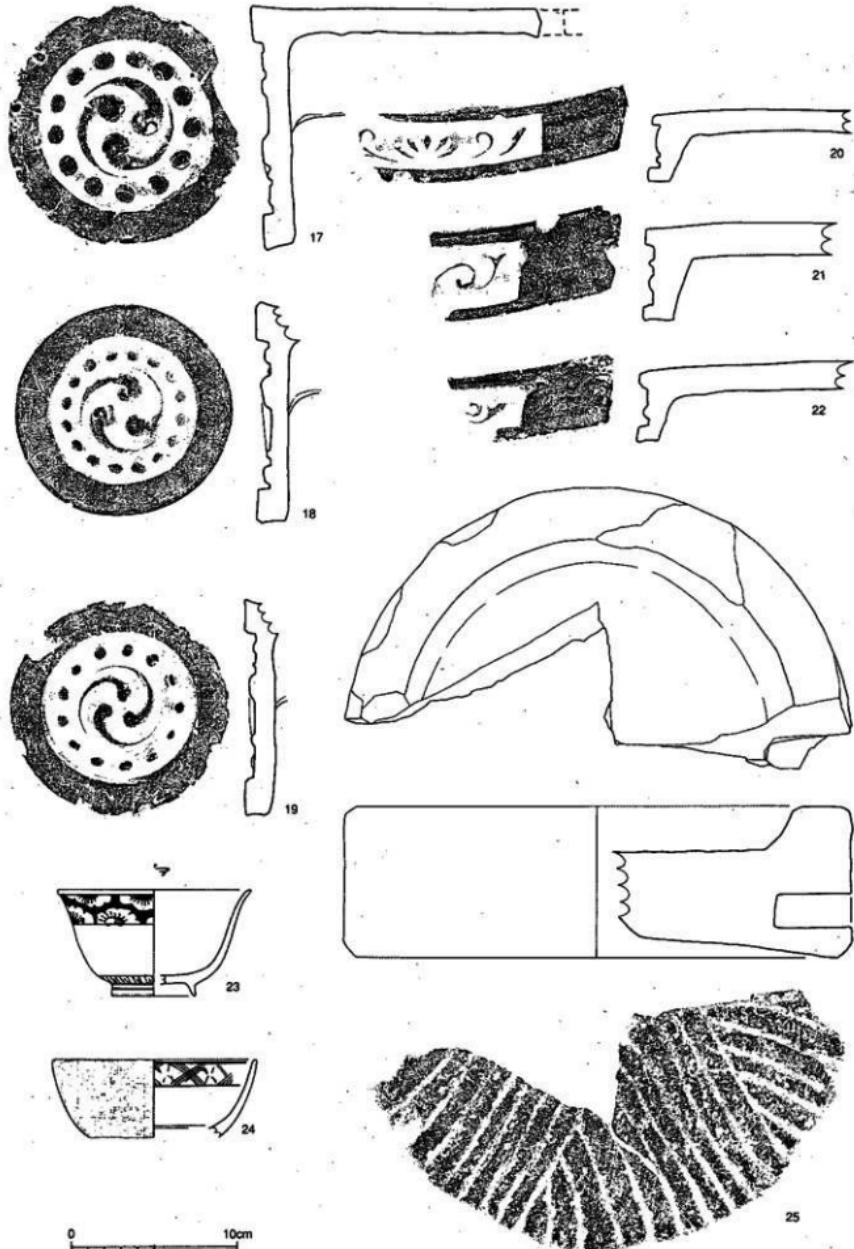
1～3は土師質管状土錘。4～6は椀、7は片口鉢、8は蓋、9は鍋。10～16は磁器の染付。うち10～12、15・16は碗、13は鉢、14は瓶。15・16は瀬戸で、他は波佐見と思われる。17～22は瓦で、17～19は軒丸瓦、20～22は軒平瓦である。以上の22点は第1層から出土した。23・24は磁器。23は染付碗で、伊万里と思われる。24は波佐見青磁の碗。25は和泉砂岩製の石臼である。23～25は第2層からの出土である。



第7図 尾崎海岸遺跡04-2区
トレンチ位置図



第8図 尾崎海岸遺跡04-2区 出土遺物 その1



第9図 尾崎海岸遺跡04-2区 出土遺物 その2

第2節 下出遺跡

下出遺跡は本市の東部に位置し、既往の調査では中世期の建物跡などが確認され、同時期の瓦が出土していることから、寺院の存在も考えられる。

(1) 04-1区

a. 調査の概要(第10~12図)

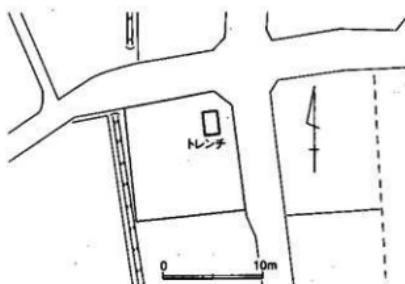
調査は調査区内に2.2m×1.5mのトレンチを設定して実施した。

盛土、耕作土より下の基本層序は、第3層茶色シルト、第4層明灰色シルト、第5層黄茶色礫混土、第6層茶灰色礫の地山である。

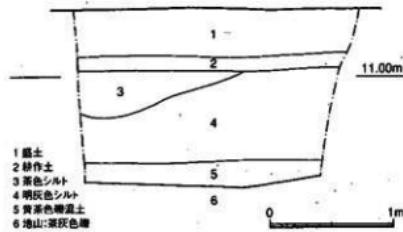
遺構は検出されなかった。遺物は第3層から瓦器が、第4層から土師器、瓦器、磁器が出土したが、小片のため図化できなかった。



第10図 下出遺跡調査区位置図



第11図 下出遺跡04-1区 トレンチ位置図



第12図 下出遺跡04-1区、トレンチ西側断面図

第3節 黒田南遺跡

1988年度の分布調査で瓦器片などの散布が確認され、遺跡になった。その後の調査で、包含層の存在は認められるものの、遺跡の性格は不明である。

(1) 04-1区

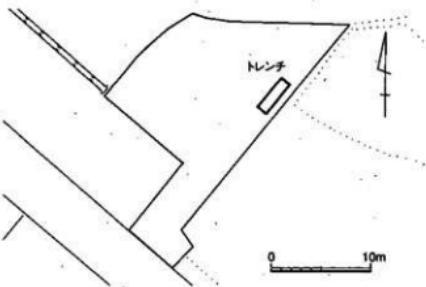
a. 調査の概要（第13・14図）

調査地は黒田南遺跡の北西部に位置する。調査は調査区内に3.8m×1.2mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層灰黄色粘土の地山で、遺構、遺物ともに検出されなかった。



第13図 黒田南遺跡調査区位置図



第14図 黒田南遺跡04-1区 トレンチ位置図

第4節 内畠遺跡

内畠遺跡は1989年の原作者の工事に先立つ試掘調査によって確認された。過去の調査では中世期～近世期の集落跡が検出されている。

(1) 04-1区

a. 調査の概要 (第15～18図)

調査地は内畠遺跡の西端部に位置する。

調査は調査区内に2.9m×1.3mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層淡黄灰色礫混土、第3層茶灰色砂質土、第4層淡黄色粘質土の地山である。遺物は第2層から土師質土器の管状土錐と蛸壺、陶器、磁器、瓦などが出土した。1は陶器の急須の口縁部で、2～4は土師質管状土錐である。遺構は地山面で土坑を2検出した。

b. 遺構 (第17・18図)

- 土坑1 -

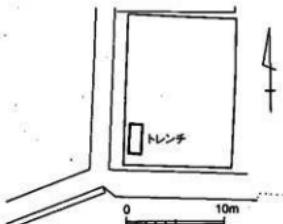
地山面でトレンチ全体に拡がる土坑を検出した。幅2.6m以上、深さ0.4m、埋土は暗茶灰色砂質土で、遺物は土師質管状土錐・蛸壺、陶器、磁器、近世瓦などが出土した。5は唐津の椀、6は伊万里の碗とともに近世期のものである。

- 土坑2 -

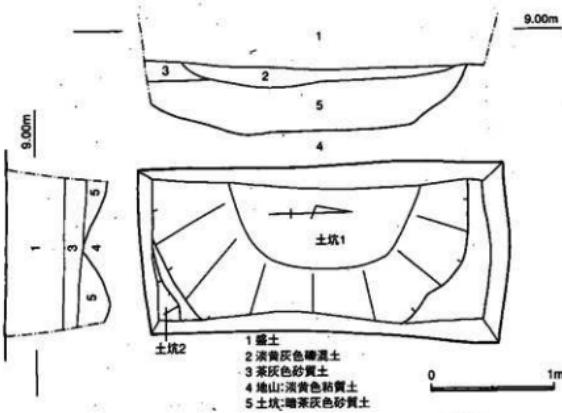
幅0.6m以上、深さ0.3m以上、埋土は土坑1と同じ暗茶灰色砂質土である。遺物は出土しなかった。



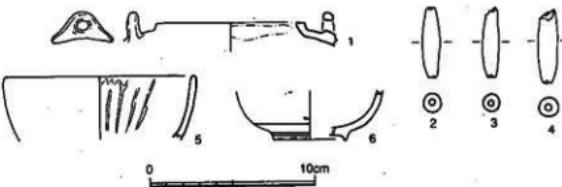
第15図 内畠遺跡調査区位置図



第16図 内畠遺跡04-1区 トレンチ位置図



第17図 内畠遺跡04-1区 トレンチ平面図・断面図



第18図 内畠遺跡04-1区 出土遺物

第5節 鳥取南遺跡

既往の調査では下記の調査地の南西約150m付近において、弥生時代後期の遺構、遺物が検出されている。

(1) 03-1区

a. 調査の概要（第19～21図）

調査地は鳥取南遺跡の北部に位置する。

調査は調査区内に $2.6\text{m} \times 1.3\text{m}$ のトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層暗灰茶色土、第3層灰黃茶色土、第4層淡灰黃茶色土、第5層明灰黃色土の地山である。遺物は第2層、第3層からそれぞれ土師質土器が出土した。

遺構は第3層上面でピットを検出した。

b. 遺構（第21図）

—ピット—

第3層上面で検出した。直径0.5m以上、深さ0.2mである。埋土は暗茶灰色土で、土師質土器が出土した。

(2) 04-2区（第19・22・23図）

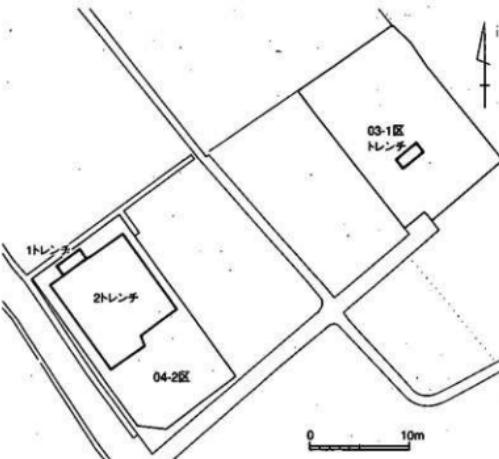
a. 調査の概要

調査区は04-1区の東約30mに位置する。

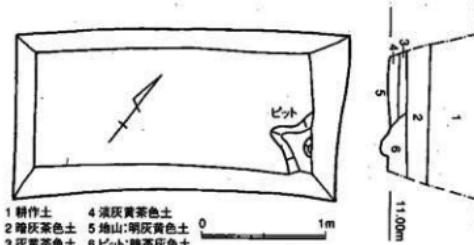
調査は調査区内に $3.0\text{m} \times 1.0\text{m}$ と $10.0\text{m} \times 9.0\text{m}$ の2ヶ所のトレンチを設定して実施した。



第19図 鳥取南遺跡調査区位置図



第20図 鳥取南遺跡03-1区・04-2区 トレンチ位置図



第21図 鳥取南遺跡03-1区 トレンチ平面図・断面図

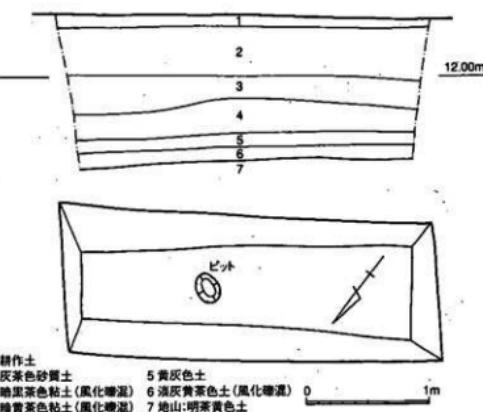
基本層序は第1層耕作土、第2層灰茶色砂質土、第3層暗黒茶色粘土、以下暗黄茶色粘土、黄灰色土、淡灰黄茶色土の順で、第7層が明茶黄色土の地山である。なお、2トレンチは工事による掘削で影響を受ける第2層までの調査を行った。遺物は第2層から土師器、須恵器、土師質土器、スサ入り焼土塊などが、第3・4層からは第2層の出土遺物に加え、瓦器が出土している。また、銭貨1点が出土している。1は北宋錢の「咸平元宝」で、初鑄は西暦998年。2～4は須恵器で、2は壺蓋、3は壺身、4は鉢の口縁部である。前2点は第2層から、残りの2点は第3・4層から出土した。

遺構は1トレンチでピットを1検出した。

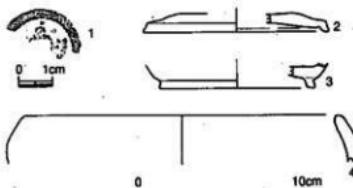
b. 遺構（第22図）

—ピット—

1トレンチの地山面で検出した。直径0.25m、深さ0.06mで、埋土は暗茶黒色土である。遺物は出土しなかったが、中世期以前の遺構である。



第22図 烏取南遺跡04-2区 1トレンチ平面図・断面図



第23図 烏取南遺跡04-2区 出土遺物

第6節 神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は縄文時代草創期から近世期までの複合遺跡である。

03-3区、03-4区、03-5区、04-1区、04-4区は神光寺(蓮池)遺跡の南部で同一開発地域内にあり、お互いが近接している。周辺からは弥生時代の方形周溝墓や溝が検出されている。土色は03-3区を基本層序として扱った。出土遺物から各層の時代は第3層が中世期、第4層が奈良時代と思われる。第5層から遺物は出土していないため、時代は不明である。

(1) 03-3区

a. 調査の概要 (第24~26図)

調査は調査区内に2.8m×2.5mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡黄灰色土、第4層明黃褐色土、第5層黄茶灰色土、第6層暗黄灰色粘土の地山である。遺物は第2層から磁器、第3層から土師器が出土している。遺構は検出されなかった。

(2) 03-4区

a. 調査の概要 (第24・25・27図)

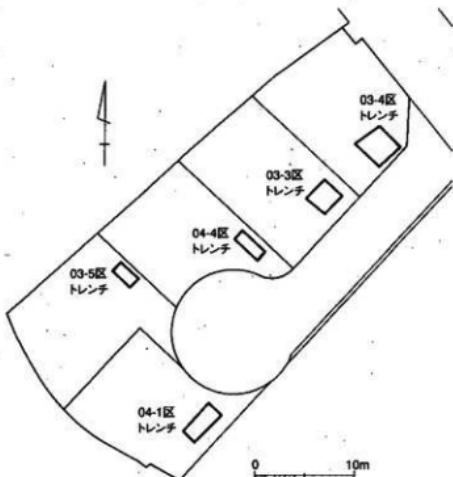
調査は調査区内に3.3m×3.0mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡黄灰色土、第5層黄茶灰色土、第6層暗黄灰色粘土の地山である。遺物は第3層から土師器、須恵器、瓦器、陶器、瓦などが出土した。

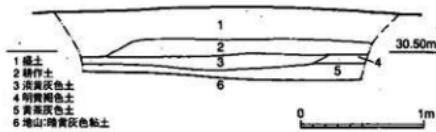
遺構は検出されなかった。



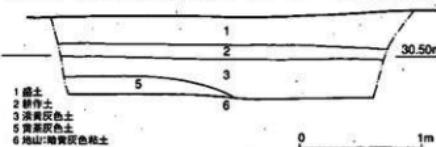
第24図 神光寺(蓮池)遺跡調査区位置図



第25図 神光寺(蓮池)遺跡03-3区・03-4区・03-5区
04-1区・04-4区 トレンチ位置図



第26図 神光寺(蓮池)遺跡03-3区 トレンチ北側断面図



第27図 神光寺(蓮池)遺跡03-4区 トレンチ南側断面図

(3) 03-5区

a. 調査の概要 (第24・25・28図)

調査は調査区内に $2.4m \times 1.3m$ のトレンチを設定して実施した。基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡黄灰色土、第4層明黄褐色土、第5層黄茶灰色土、第6層暗黄灰色粘土の地山である。遺物は第4層から土師器、須恵器が出土した。

遺構は溝を1検出した。

b. 遺構 (第28図)

一溝

第5層上面で検出した。

幅1.2m、長さ1.7m以上、深さ0.38mの南北方向の溝で、調査区外に延びている。埋土は淡灰色砂質土である。繩文土器の可能性がある細片が1点出土しているが、図示できなかった。

(4) 04-1区

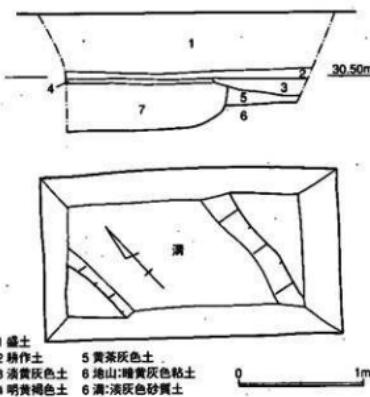
a. 調査の概要

(第24・25・29図)

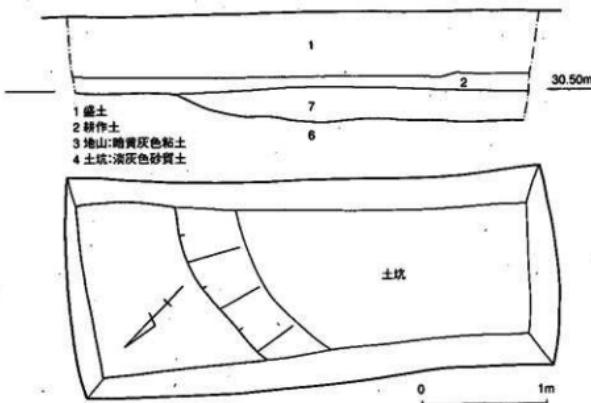
調査は調査区内に $3.8m \times 1.8m$ のトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第6層暗黄灰色粘土の地山である。周辺でみられるような包含層は確認されないため、削平されたと考えられる。

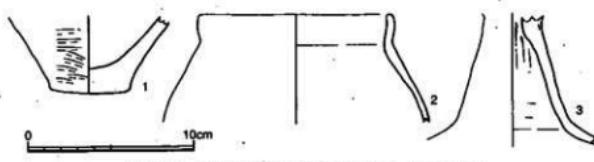
遺構は土坑を1検出した。



第28図 神光寺(蓮池)遺跡03-5区
トレンチ平面図・断面図



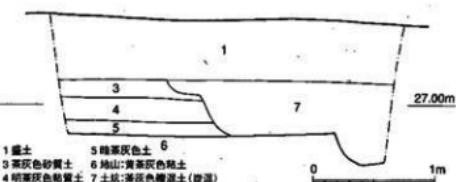
第29図 神光寺(蓮池)遺跡04-1区 トレンチ平面図・断面図



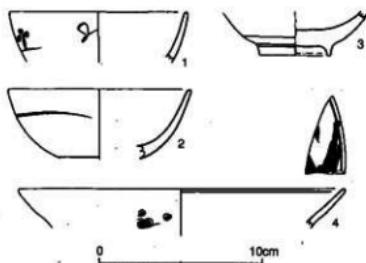
第30図 神光寺(蓮池)遺跡04-1区 出土遺物



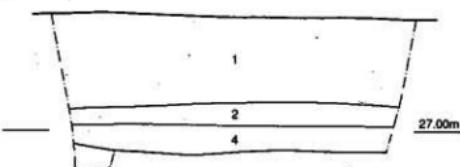
第31図 神光寺(蓮池)遺跡04-2区・04-3区 トレンチ位置図



第32図 神光寺(蓮池)遺跡04-2区 トレンチ西側断面図



第33図 神光寺(蓮池)遺跡04-2区 出土遺物



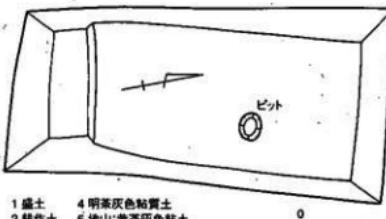
(5) 04-2区

a. 調査の概要 (第24・31~33図)

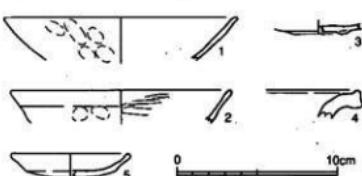
04-2区、04-3区は神光寺(蓮池)遺跡の南東部で、前述の調査地から約170m北東に位置する。周辺の調査では中世期の耕作地遺構を数面検出している。

調査は調査区内に2.8m×1.5mのトレンチを設定し実施した。基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層茶灰色砂質土、第4層明茶灰色粘質土、第5層暗茶灰色土、第6層黄茶灰色土の地山である。遺物は第5層から瓦器、土師質土器、瓦が出土したが、図示できるものはなかった。

遺構は第3層上面で近世期と考えられる土坑を検出した。埋土は茶灰色礫混土で土師質土器、陶器、磁器が出土した。1~4は磁器の染付で1~3は波佐見の碗、4は皿である。



第34図 神光寺(蓮池)遺跡04-3区 トレンチ平面図・断面図



第35図 神光寺(蓮池)遺跡04-3区 出土遺物

(6) 04-3区

a. 調査の概要 (第24・31・34・35図)

調査は調査区の南部に3.0m×1.4mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は04-2区と同じであるが、第3・5層は存在しなかった。遺物は第4層から、瓦器、土師質土器、白土器、瓦質管状土錐、スサ入り焼土塊が出土した。1～3は瓦器碗、4は土師質土器の羽釜で紀伊型と呼ばれるもの。5は白土器の皿である。

遺構は地山面でピットを検出した。

b. 遺構 (第34図)

-ピット-

地山面で検出した。直径0.20m、深さ0.20m、埋土は第4層と同じ明茶灰色粘質土である。土師質土器が出土したが、図示できるものはなかった。

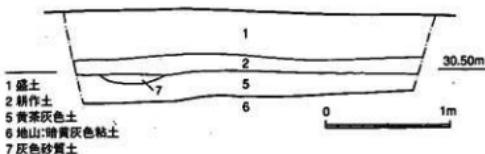
(7) 04-4区

a. 調査の概要 (第24・25・36図)

調査は調査区の北東部に3.0m×1.2mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第5層黄茶灰色土、第6層暗黄灰色粘土の地山である。

遺構、遺物ともに検出しなかった。



第36図 神光寺(蓮池)遺跡04-4区 トレンチ北側断面図



第37図 神光寺(蓮池)遺跡04-8区 トレンチ位置図

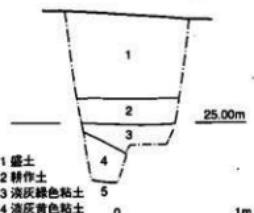
(8) 04-8区

a. 調査の概要 (第24・37・38図)

調査地は神光寺(蓮池)遺跡のほぼ中央部で縄文時代草創期の有茎尖頭器が出土した蓮池の北に位置する。

調査は調査区内に2.0m×1.0mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層淡灰緑色粘土、第4層淡灰黄色粘土、第5層灰黄色粘土の地山である。遺構は検出されず、遺物は第3層から弥生土器、土師器、瓦器が出土したが、図示できるものはなかった。



第38図 神光寺(蓮池)遺跡04-8区 トレンチ南側断面図

第7節 向出遺跡

(1) 03-3区

a. 調査の概要 (第39~44図)

調査区は1998年度に(財)大阪府文化財調査研究センターが行った一般国道26号線バイパス(第二阪和国道)の調査区から西へ約40m、当市教育委員会が行った98-4区、00-5区の調査区の東部約40mに当たる。前者が行った調査では縄文時代後期~晩期の土坑墓群が、後者が行った調査区からは縄文時代晩期の土坑墓群が検出されている。

調査は調査区内に擁壁部のトレンチを「コ」の字形に、北西部には浄化槽部の1.0m×0.9mのトレンチを1ヶ所設定して実施した。

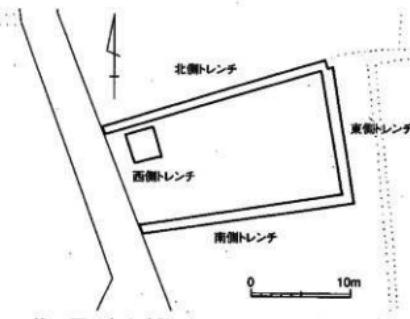
北側の隣地との高低差は約1.0mで、石垣で土留めが行われていた。

基本層序は第1層耕作土、第2層淡茶灰色土、第3層淡茶色小礫混土、第4層茶色土、第5層茶黒色風化礫混土、第6層濃茶灰色礫混土、第7層濃茶色土、第8層暗褐色土混礫の地山である。南側、東側トレンチは工事によって掘削される深度までの調査しか行っていないが、部分的に層の堆積を地山面まで確認した。

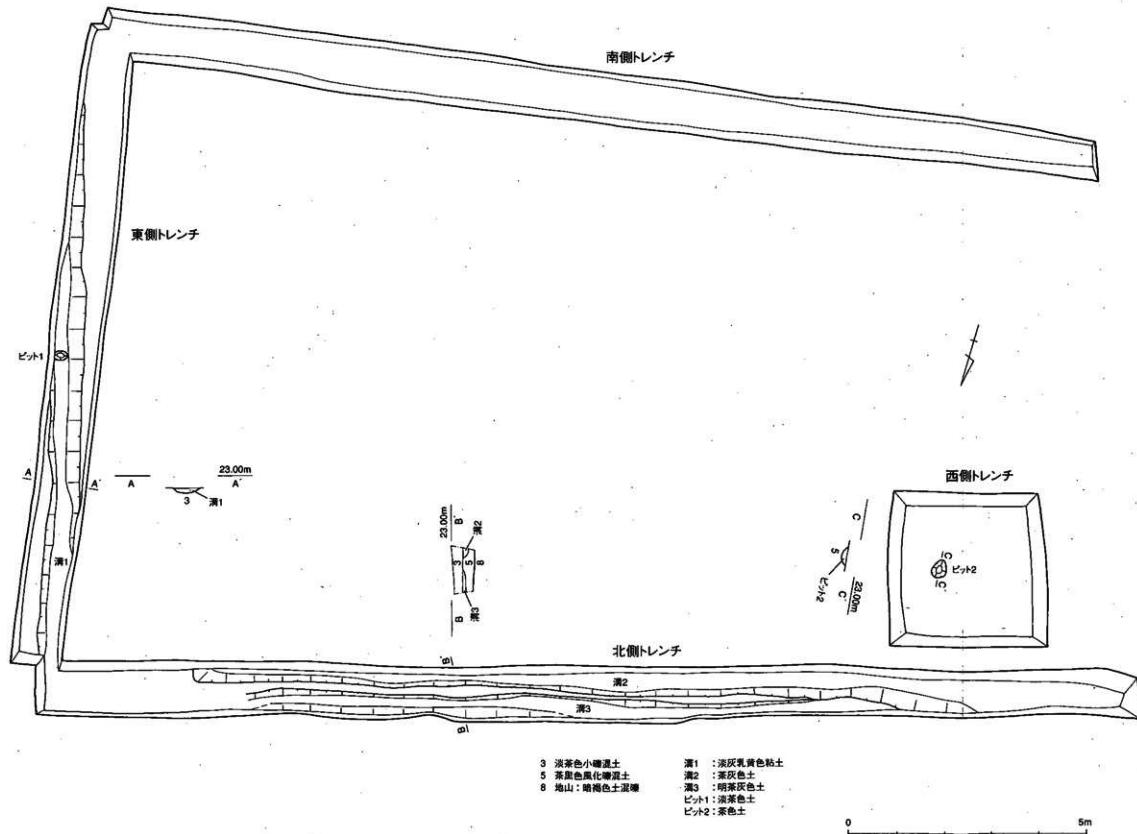
出土遺物は第2~6層からそれぞれサヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器が出土した。前記に加えて第2層からは土師質土器、瓦器、白土器、陶器、磁器、鉄釘、第3層からは土師質土器、白土器、白磁、陶器、磁器、製塙土器、瓦、土師質蜻壺、第4層からは土師質蜻壺、第6層からは土師質土器が出土した。図示できた遺物は次のとおりである。1~9はサヌカイトの石鎌、10は縄文土器、11~12は磁器で波佐見の碗。13~27はサヌカイトの石器で、13~25は石鎌、26~27は石錐。28~29は須恵器の壊蓋、30は唐津の椀である。31~32は磁器碗で31は伊万里、32は波佐見である。33~34は黒色土器の椀である。1~12は第2層、13~32は第3層、33~34は第4層から出土した。第2・3層は近世期、第4層は中世期、第5~6層は平安時代、第7層は遺物が出土していないので時代は不明であるが、平安時代以前である。



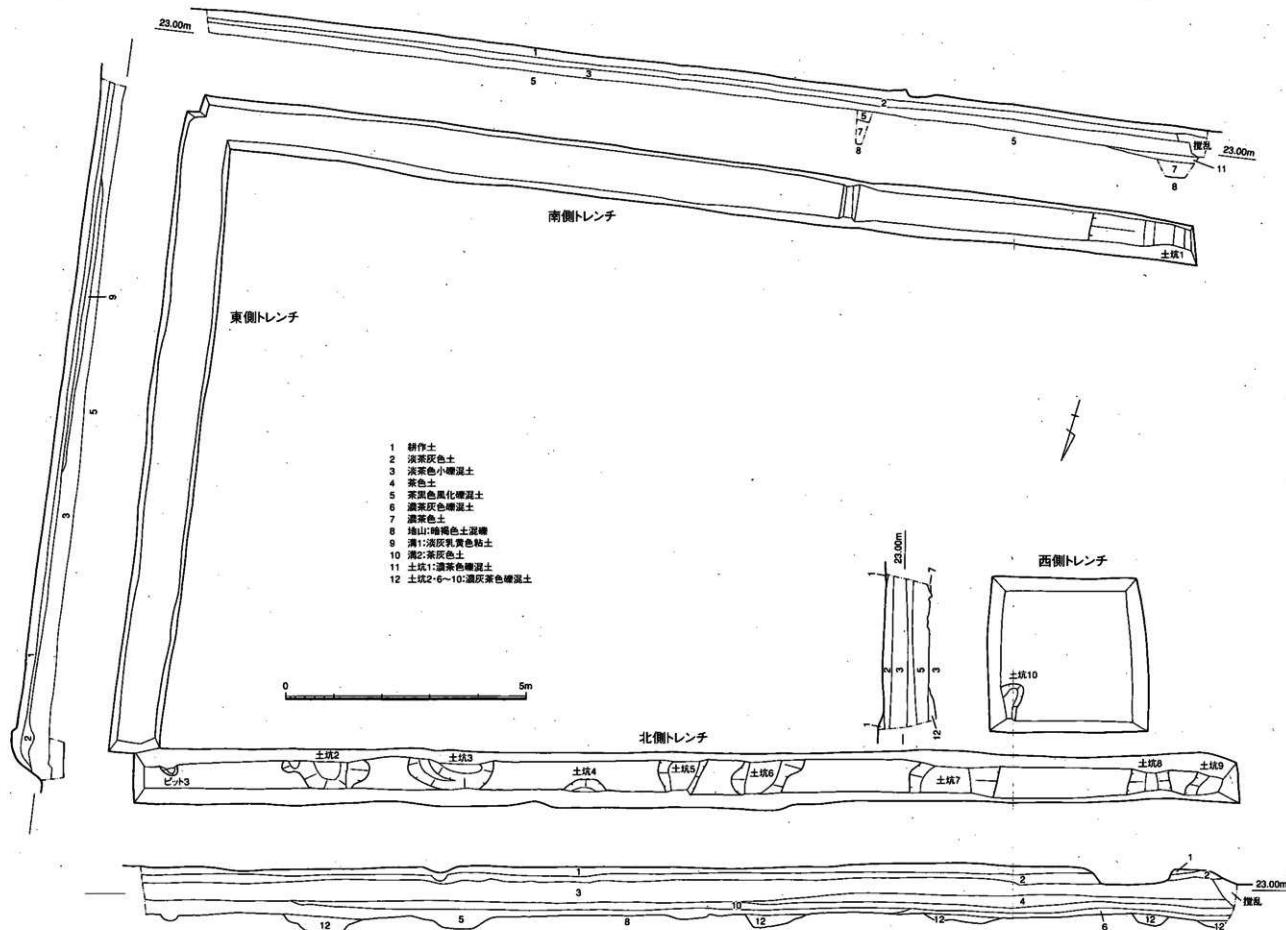
第39図 向出遺跡調査区位置図



第40図 向出遺跡03-3区 トレンチ位置図

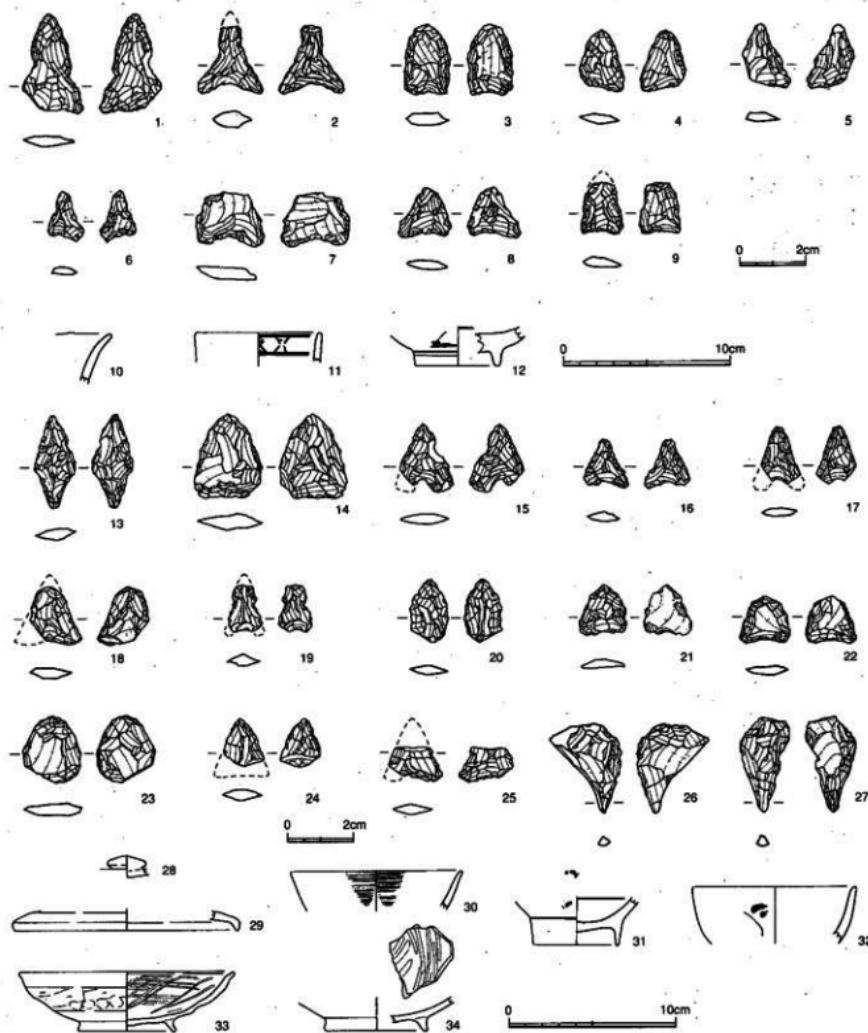


第41図 向出遺跡03-3区 トレンチ上層平面図



第42図 向出遺跡03-3区 トレンチ下層平面図・断面図

遺構は第3層上面で溝1、第5層上面で溝2・3、第7層上面で土坑1、第8層上面で土坑2~10とピット1を検出した。以下に詳細を述べる。



第43図 向出遺跡03-3区 出土遺物

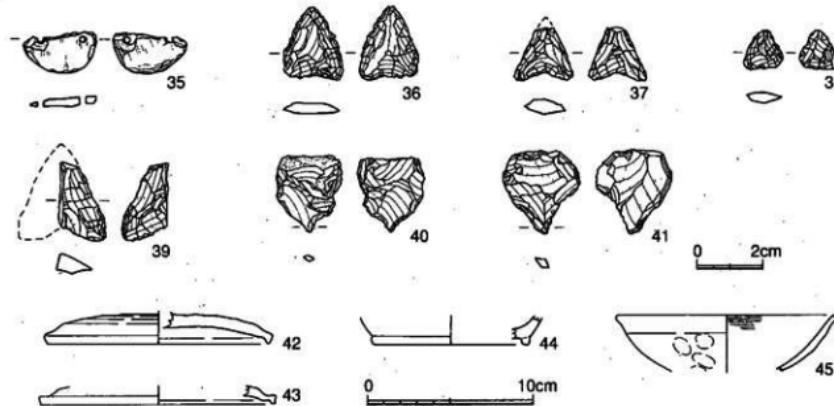
b. 遺構

- 溝 1 - (第41図)

東側トレンチの第3層上面で検出した。長さ11.4m以上、幅0.6m、深さ0.11mで、南北方向に流れる。埋土は淡灰乳黄色粘土である。出土遺物はサヌカイト、弥生土器、須恵器、瓦器などである。近世期の遺構である。

- 溝 2 - (第41・44図)

北側トレンチの第5層上面で検出した。長さ16.2m以上、幅0.5m以上、深さ0.11mで、東西方向に流れる。埋土は茶灰色土である。出土遺物はサヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、白土器、製塙土器、陶器、瓦などで、中世期の溝と考えられる。35は緑泥片岩の双孔円盤、36~41はサヌカイトの石器で、36~39は石鎌、40・41は石錐である。42~44は須恵器で42・43は壺蓋、44は壺身。45は瓦器碗。中世期の遺構である。



第44図 向出遺跡03-3区 溝2 出土遺物

- 溝 3 - (第41図)

北側トレンチの北端、第5層上面で検出した。溝2に切られている。長さ13.0m以上、幅0.3m以上、深さ0.06mで、東西方向に流れる。埋土は明茶灰色土である。出土遺物はサヌカイト、縄文土器、土師器、須恵器、黒色土器、土師質土器、製塙土器、瓦が出土した。中世期の遺構である。

- 土坑 1 - (第42図)

南側トレンチの西端、第5層上面で検出した。東西2.2m以上、南北0.5m以上、深さ0.14mで、埋土は濃茶色礫混土である。遺物は出土しなかった。時期は不明である。

- 土坑 2 - (第42図)

北トレンチの地山面で検出した。東西1.8m、南北0.8m以上、深さ0.35mで、埋土は濃灰茶色礫混土である。遺物は出土しなかったが、縄文時代の遺構である。

- 土坑 3 - (第42図)

地山面で検出した。東西1.8m、南北0.8m以上、深さ0.26mで、埋土は第5層の茶黒色風化礫混土である。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、黒色土器が出土した。平安時代の遺構である。

- 土坑 4 - (第42図)

地山面で検出した。東西1.0m、南北0.3m以上、深さ0.15mで、埋土は第5層の茶黒色風化礫混土である。遺物は弥生土器、土師器が出土した。平安時代の遺構である。

- 土坑 5 - (第42図)

地山面で検出した。東西1.0m、南北0.8m以上、深さ0.08mで、埋土は第5層の茶黒色風化礫混土である。遺物は出土しなかったが、平安時代の遺構である。

- 土坑 6 - (第42図)

地山面で検出した。東西1.5m、南北0.8m以上、深さ0.26mの土坑で、埋土は濃灰茶色礫混土である。遺物は出土しなかったが、土色から縄文時代の遺構であると考えられる。

- 土坑 7 - (第42図)

地山面で検出した。東西1.8m、南北0.8m以上、深さ0.14mで、埋土は濃灰茶色礫混土である。遺物はサヌカイトが出土した。縄文時代の遺構である。

- 土坑 8 - (第42図)

地山面で検出した。東西0.9m、南北0.8m以上、深さ0.24mの土坑で、埋土は濃灰茶色礫混土である。遺物はサヌカイトが出土した。縄文時代の遺構である。

- 土坑 9 - (第42図)

地山面で検出した。東西0.8m、南北0.8m以上、深さ0.16mで、埋土は濃灰茶色礫混土である。遺物は出土しなかったが、土色より縄文時代の遺構と考えられる。

- 土坑 10 - (第42図)

西側トレンチの東北端の地山面で検出した。東西0.9m、南北0.8m以上、深さ0.14mで、埋土は濃灰茶色礫混土である。土坑7と同一の遺構の可能性も考えられる。遺物は縄文土器が出土したが図示できなかった。

—ピット1—（第41図）

東側トレンチの第3層上面、溝1掘削後に検出した。直径0.3m、深さ0.08mで、埋土は淡灰茶色土である。遺物はサヌカイト、弥生土器、瓦器が出土したが、第3層から磁器が出土しているため、近世期の遺構である。

—ピット2—（第41図）

西側トレンチの第5層上面で検出した。直径0.35m、深さ0.11mで、埋土は第4層と同じ茶色土である。遺物は弥生土器が出土したが、中世期の遺構である。

—ピット3—（第42図）

北側トレンチの第5層上面で検出した。直径0.3m、深さ0.12mで、埋土は第5層と同じ茶黒色風化礫混土である。遺物は出土しなかったが、平安時代の遺構である。

第8節 高田南遺跡

高田南遺跡は1988年度の埋蔵文化財分布調査によって発見周知された遺跡である。上記調査では土師器、須恵器、瓦器、瓦、陶器、磁器などが採取された。その後、小規模な調査は数件行ったが、遺跡の詳細な性格がわかる成果はなかった。

(1) 03-1区

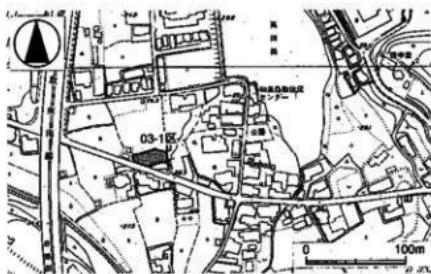
a. 調査の概要（第45～47図）

調査地は、高田南遺跡の南部に位置する。

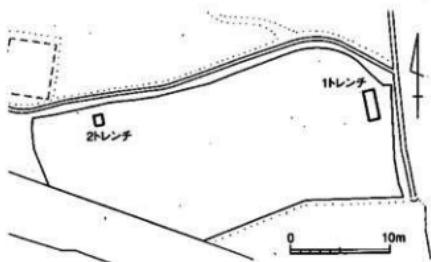
調査は調査区内に3.0m×1.2mと1.0m×0.9mの2ヶ所のトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層茶灰色土、第3層黄灰色砂質土、第4層灰黄色砂質土、第5層灰色砂質土、第6層濃灰色粘質土、第7層暗灰色粘質土、第8層明橙黄色粘土、第9層青灰色粘土である。遺物は第2層から土師質土器、第5層から土師器が出土した。

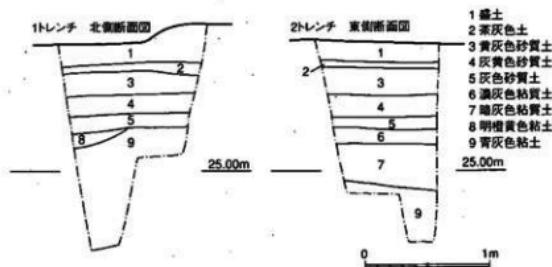
遺構は確認できなかった。



第45図 高田南遺跡調査区位置図



第46図 高田南遺跡03-1区 トレンチ位置図



第47図 高田南遺跡03-1区 トレンチ断面図

第9節 貝掛遺跡

貝掛遺跡は花折川、积迦坊川が形成する河岸段丘に拡がる遺跡である。1989年度の調査では奈良時代の大形建物跡や三彩の八曲長杯を検出した。また、上記調査地の約100m東で行った、2003年度の調査でも、大形の柱穴をもつ建物跡を検出した。

(1) 04-3区

a. 調査の概要（第48～50図）

調査地は貝掛遺跡の西端部で、积迦坊川の西側に位置する。

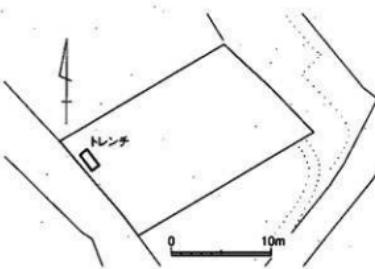
調査は調査区内に2.1m×1.0mのトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層褐黄灰色粘質土、第3層灰黄色粘土である。

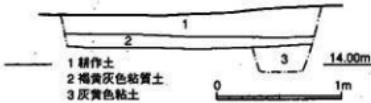
遺構・遺物ともに検出されなかった。



第48図 貝掛遺跡調査区位



第49図 貝掛遺跡04-3区 トレンチ位置図



第50図 貝掛遺跡04-3区 トレンチ東側断面図

第10節 箱作今池遺跡

(1) 04-2区

a. 調査の概要 (第51~53図)

調査地は箱作今池遺跡の北西部に位置する。

調査は調査区内に $2.8m \times 1.5m$ のトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層褐茶灰色砂質土、第4層灰褐色土、第5層淡黄灰色土、第6層灰黄色土の地山であった。遺物は第2層から土師質婧壺、第3層から須恵器、瓦器、土師質土器、白土器、土師質婧壺が出土した。1・2は白土器の小皿で、第3層から出土した。

遺構は地表面でピットを1検出した。

b. 遺構 (第53・54図)

-ピット-

地表面で検出した。直径 $0.36m$ 、深さ $0.15m$ 、埋土は第5層淡黄灰色土と同じで、遺物は出土しなかったが、中世期以前の遺構である。

(2) 04-3区

a. 調査の概要 (第51・55・56図)

箱作今池遺跡は、本市西部を流れる茶屋川及びその支流の飯ノ峯川が形成する平野部に拡がる。調査地は箱作今池遺跡の北西部に位置する。

調査は調査区内に $2.0m \times 1.2m$ のトレンチを設定して実施した。

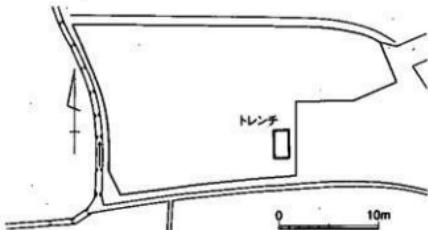
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層灰色砂質土、第4層褐灰茶色礫混砂質土、第5層暗灰茶色礫混砂質土、第6層黄茶灰色礫混土の地山である。

遺物は第3層から土師質婧壺が出土した。

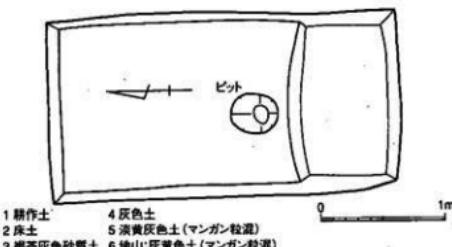
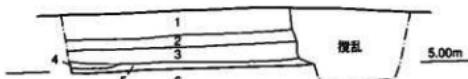
遺構は検出しなかった。



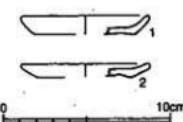
第51図 箱作今池遺跡調査区位置図



第52図 箱作今池遺跡04-2区 トレンチ位置図



第53図 箱作今池遺跡04-2区 トレンチ平面図・断面図



第54図 箱作今池遺跡04-2区
出土遺物

(3) 04-4区

a. 調査の概要 (第51・55・57図)

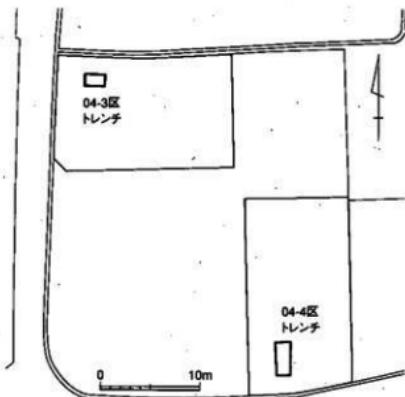
調査区は前述した04-3区と同じ開発地に所在する。

調査は調査区内に3.0m×1.5mのトレンチを設定して実施した。

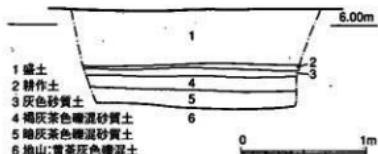
基本層序は04-3区とほぼ同じであるが、第4層は茶褐色土である。

遺物は第3層から瓦器、土師質土器、白土器、陶器、磁器などが、第4層から土師質土器が出土した。この他、スサ入り焼土塊が出土しているが、いずれも小片のため図化していない。

遺構は検出されなかった。



第55図 箱作今池遺跡04-3区・04-4区
トレンチ位置図



第56図 箱作今池遺跡04-3区 トレンチ北側断面図



第57図 箱作今池遺跡04-4区 トレンチ東側断面図

第11節 田山東遺跡

(1) 03-2区

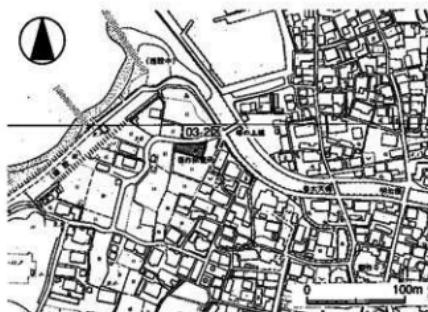
a. 調査の概要 (第58~61図)

調査地は、田山東遺跡の北端部で茶屋川河口部の段丘上に位置する。

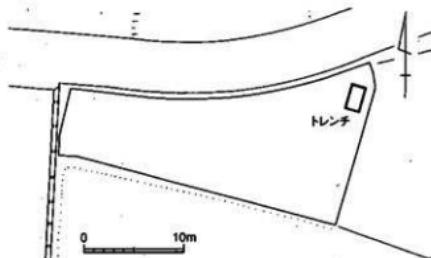
調査は調査区内に $2.5m \times 1.5m$ のトレンチを設定して実施した。

基本層序は第1層耕作土、第2層暗灰茶色砂質土、第3層黄灰茶色礫混土の地山である。遺物は第2層から須恵器、瓦器、白土器、土師質土器、瓦質土器、土師質靖壺、磁器が出土した。1~6は土師質土器で1・2は小皿、3は土師質靖壺、4は鍋で紀伊型のもの、5・6は炮烙である。7は白土器の小皿。すべて第2層から出土した。

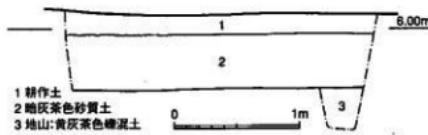
遺構は検出されなかった。



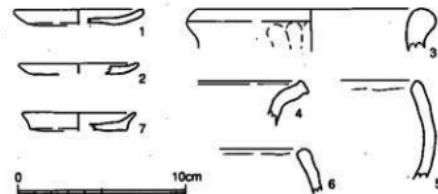
第58図 田山東遺跡調査区位置図



第59図 田山東遺跡03-2区 トレンチ位置図



第60図 田山東遺跡03-2区 トレンチ東側断面図



第61図 田山東遺跡03-2区 出土遺物

第2章 まとめ

今年度は22件の調査を行ったが、例年通りほとんどが小規模の調査であった。

その中でも向出遺跡03-3区の調査は幅の狭いトレンチながら、縄文時代の土坑を数基検出した。向出遺跡は1987年度に当市教育委員会が行った、埋蔵文化財分布調査によって発見周知された遺跡である。その後、遺跡内で些少な調査は数件行われたが、遺跡の詳細がわかる成果はなかった。しかし、1997年の96-1区の調査で数点の縄文土器が出土し、同時代の生活跡の拡がりが期待されるようになった。1998年度に(財)大阪府文化財調査研究センターが行った一般国道26号線バイパス(第二阪和国道)工事に先立つ調査では、約9000m²という調査面積もあり、大きな成果を得た。台地上に拡がる450基を数える土坑墓群は西日本では稀なもので、発見当初は新聞紙面でも華々しく取り上げられ、おのずと保存を期待する声も高まった。その結果、当市教育委員会では史跡指定を踏まえ、1998年度から2001年度に掛けて、遺跡の範囲確認調査を行った。詳細は「阪南市埋蔵文化財発掘調査報告36」を参照にされたい。03-3区の調査で出土した土坑群も恐らく、前述した土坑墓群に関係するものと考えられる。

その他に特筆すべきものとして神光寺(蓮池)遺跡04-1区の調査が掲げられる。1985年度の調査では弥生時代中期の方形周溝墓を初めとする遺構や弥生土器、石包丁が検出されている。今回の調査では土坑に伴って、弥生時代後期の土器が出土したことから、一時的な集落ではなく、長期に渡って集落が営まれていた可能性も示唆されることとなった。

今年度も小規模な調査の必要性が再認識された調査であった。

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう							
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 20							
副書名								
卷次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	35							
編著者名	三好義三・田中早苗・上野仁・松本武志							
編集機関	阪南市教育委員生涯学習部生涯学習推進課							
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678							
発行年月日	2005年3月31日							
所収遺跡名	所 在 地	市町村番号	地番	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
おざきかいかいがん 尾崎海岸	おざきちょう 尾崎町	37232	65	34° 21' 39"	135° 14' 34"	040630	6	住宅
おざきかいかいがん 尾崎海岸	おざきちょう 尾崎町	37232	65	34° 21' 40"	135° 14' 33"	040716	5	住宅
しもい出	しもい出	37232	66	34° 21' 16"	135° 15' 03"	041125	4	住宅
くろだみなみ 黒田南	くろだみなみ 黒田	37232	51	34° 20' 58"	135° 14' 26"	041027~28	5	住宅
うちちはは 内 煙	しどい出	37232	40	34° 21' 20"	135° 14' 46"	040908	4	住宅
とつとりみなみ 鳥取南	とつとり 鳥取	37232	55	34° 20' 56"	135° 14' 15"	040224	3	住宅
とつとりみなみ 鳥取南	とつとり 鳥取	37232	55	34° 20' 55"	135° 14' 15"	040812~19	77	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 32"	135° 14' 52"	040121	8	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 32"	135° 14' 52"	040128	9	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 31"	135° 14' 51"	040218	3	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 31"	135° 14' 51"	040524	7	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 37"	135° 14' 54"	040603	4	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 37"	135° 14' 54"	040616	4	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 32"	135° 14' 51"	040706	4	住宅
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	いし 石田	37232	20	34° 20' 38"	135° 14' 40"	041206	2	倉庫
むかいでじねんだ 向出	自然田	37232	43	34° 20' 46"	135° 15' 31"	040126~0213	65	住宅
こうだみなみ 高田南	いすみととり 和泉鳥取	37232	46	34° 20' 33"	135° 15' 47"	040303	4	住宅
かいかけ掛 貝	かいかけ 貝	37232	19	34° 20' 27"	135° 13' 31"	041214	2	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 作	37232	24	34° 20' 21"	135° 12' 47"	040830	4	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 作	37232	24	34° 20' 19"	135° 12' 45"	040906	2	住宅
はこつくりいまいけ 箱作今池	はこつくり 作	37232	24	34° 20' 18"	135° 12' 46"	040927~28	5	住宅
たやまひがし 田山東	はこつくり 作	37232	58	34° 20' 18"	135° 12' 33"	040108	4	住宅

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
おざきかいがん 尾崎海岸	生産集落			土師質土器・陶器・磁器・近世瓦・寛永通宝・弥生土器	
おざきかいがん 尾崎海岸	生産集落			土師質管状土錘・陶器・磁器・近世瓦・石臼	
しもいで 下出	散布地			瓦器・土師器・磁器	
くろだみなみ 黒田南	散布地				
うちはた 内烟	散布地		土坑	土師質管状土錘・蛸壺・陶器・磁器・瓦	
とつとりみなみ 鳥取南	散布地		ピット	土師質土器	
とつとりみなみ 鳥取南	散布地		ピット	土師器・須恵器・土師質土器・スサ入り焼土塊・瓦器	
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地			磁器・土師器	
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地・寺社 その他の墓			土師器・須恵器・瓦器・陶器・瓦	
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地・寺社 その他の墓		溝	土師器・須恵器	
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地・寺社 その他の墓		土坑	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・白磁	
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地・寺社 その他の墓		土坑	瓦器・土師質土器・瓦・陶器・磁器	
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地・寺社 その他の墓		ピット	瓦器・土師質土器・白土器・瓦質管状土錘・スサ入り焼土塊	
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地・寺社 その他の墓				
じんこうじはすいけ 神光寺(蓮池)	散布地・寺社 その他の墓			弥生土器・土師器・瓦器	
むかいで 向出	散布地		溝 土坑 ピット	サヌカイト・縄文・弥生・土師器・須恵器・黒色土器・土師質土器・瓦器・白土器・陶器・磁器・鉄釘・白磁・磁器・製塙土器・瓦・土師質蛸壺	
こうだみなみ 高田南	散布地			土師質土器・土師器	
かいかけ 貝掛	集落跡				
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地・ 生産集落		ピット	土師質蛸壺・須恵器・瓦器・土師質土器・白土器・土師質蛸壺	
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地・ 生産集落			土師質蛸壺	
はこつくりいまいけ 箱作今池	散布地			瓦器・土師質土器・白土器・陶器・磁器・陶器・磁器・スサ入り焼土塊	
たやまひがし 田山東	散布地			須恵器・瓦器・白土器・土師質土器・瓦質土器・土師質蛸壺・磁器	



尾崎海岸遺跡04-1区 1トレンチ全景（北より）



尾崎海岸遺跡04-1区 2トレンチ全景（北より）



尾崎海岸遺跡04-2区 トレンチ全景（北より）



下出遺跡04-1区 トレンチ全景（北より）



黒田南遺跡04-1区 トレンチ全景（南より）



内畠遺跡04-1区 トレンチ全景（北より）



鳥取南遺跡03-1区 トレンチ全景（南より）



鳥取南遺跡04-2区 トレンチ全景（東より）



神光寺（蓮池）遺跡03-3区 トレンチ全景（南より）



神光寺（蓮池）遺跡03-4区 トレンチ全景（西より）



神光寺（蓮池）遺跡03-5区 トレンチ全景（南より）



神光寺（蓮池）遺跡04-1区 トレンチ全景（東より）



神光寺（蓮池）遺跡04-2区 トレンチ全景（南より）



神光寺（蓮池）遺跡04-3区 トレンチ全景（南より）



神光寺（蓮池）遺跡04-4区 トレンチ全景（東より）



神光寺（蓮池）遺跡04-8区 トレンチ全景（北より）



向出遺跡03-3区 北側トレンチ全景（西より）



向出遺跡03-3区 北側トレンチ 土坑3 北側断面



向出遺跡03-3区 東側トレンチ 溝1全景（東より）



向出遺跡03-3区 東側トレンチ 溝1南側断面



向出遺跡03-3区 東側トレンチ 東側断面



向出遺跡03-3区 南側トレンチ（西より）



向出遺跡03-3区 西側トレンチ（西より）



高田南遺跡03-1区 1トレンチ全景（南より）



高田南遺跡03-1区 2トレンチ全景（西より）



貝掛遺跡04-3区 トレンチ全景（北より）



箱作今池遺跡04-2区 トレンチ全景（南より）



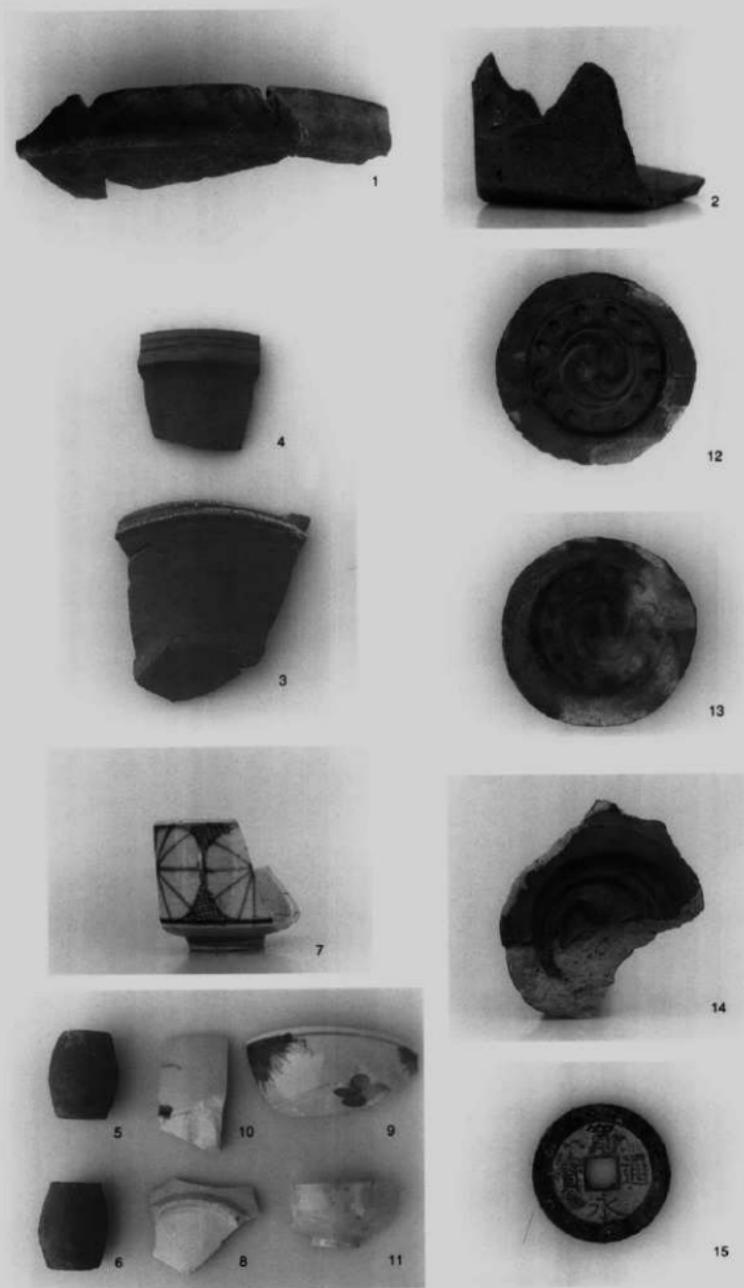
箱作今池遺跡04-3区 トレンチ全景（東より）



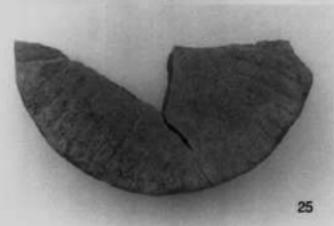
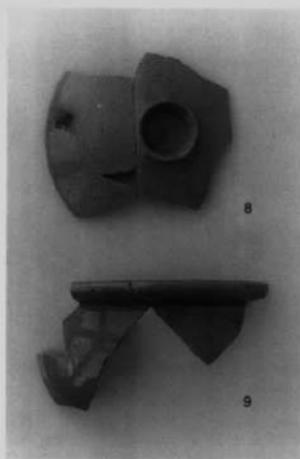
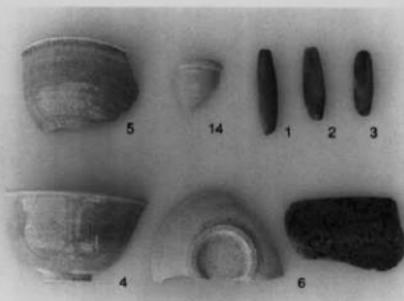
箱作今池遺跡04-4区 トレンチ全景（北より）



田山東遺跡03-2区 トレンチ全景（北より）



尾崎海岸遺跡04-1区 出土遺物





17



20



18



21

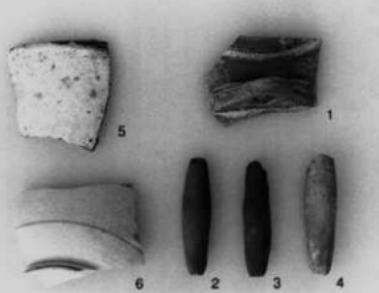


19



22

尾崎海岸遺跡04-2区 出土遺物



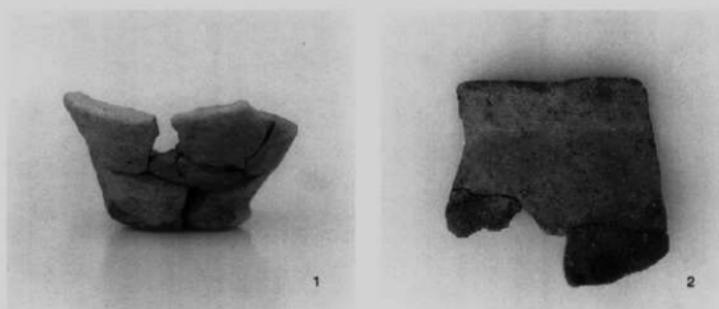
内畠遺跡04-1区 出土遺物



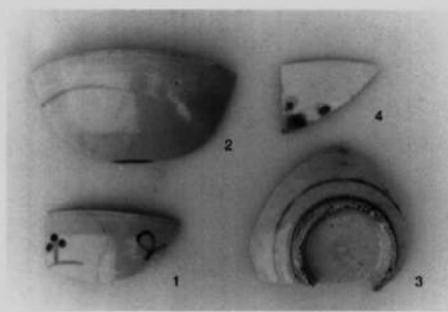
1



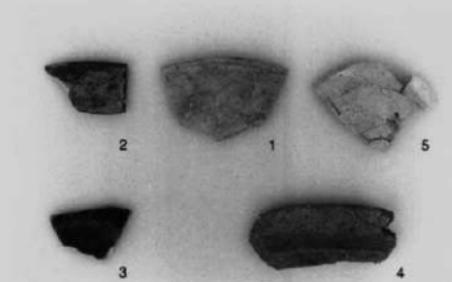
鳥取南遺跡04-2区
出土遺物



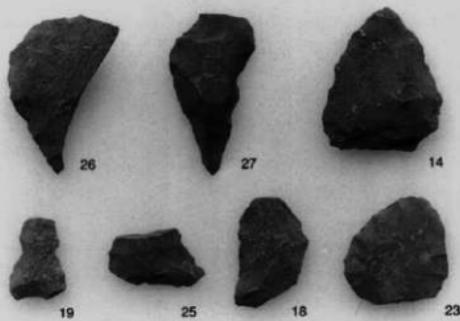
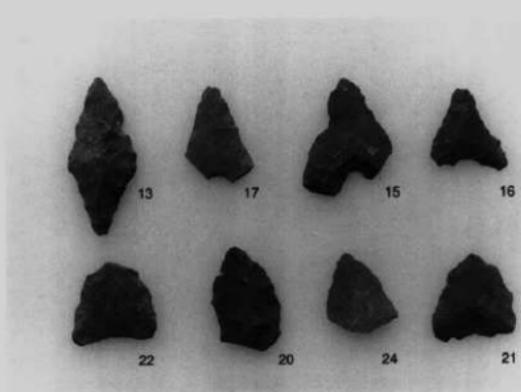
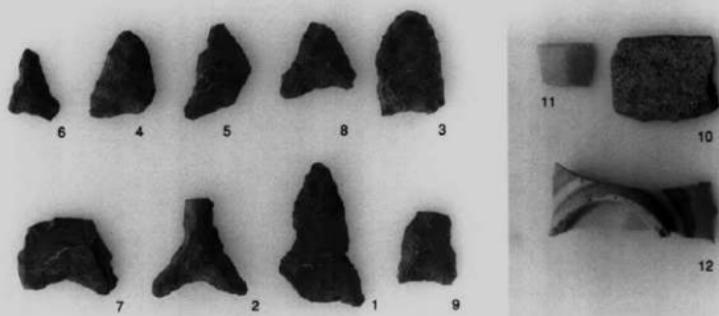
神光寺（莲池）遗跡04-1区
出土遺物



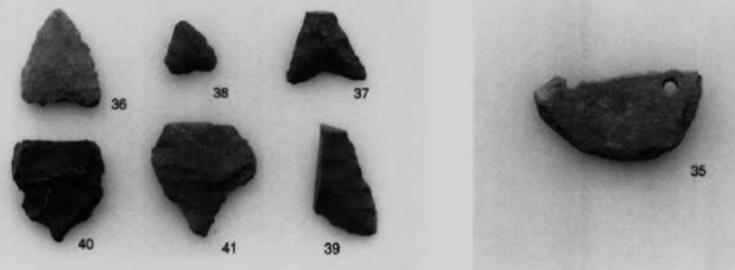
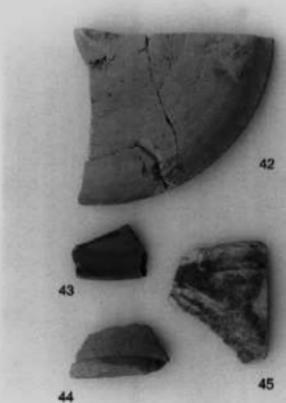
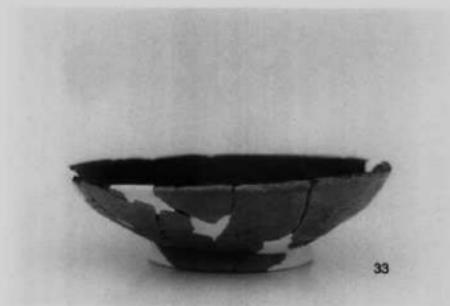
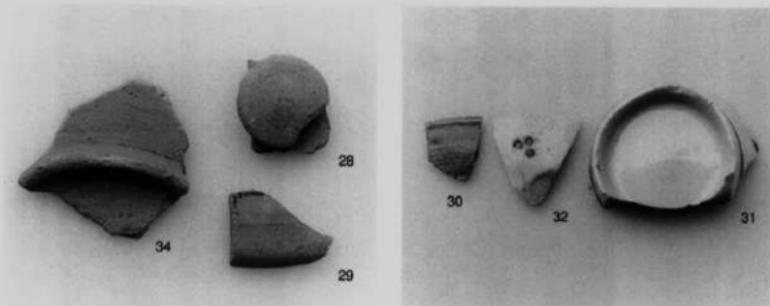
神光寺（莲池）遗跡04-2区 出土遺物



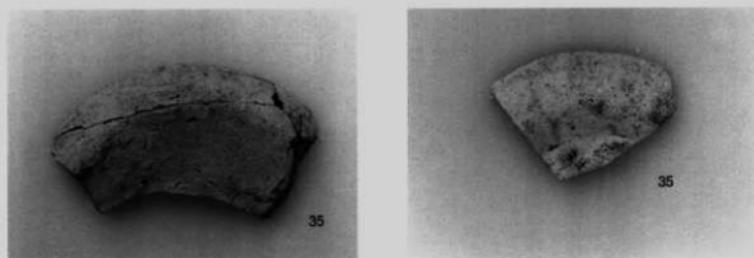
神光寺（莲池）遗跡04-3区 出土遺物



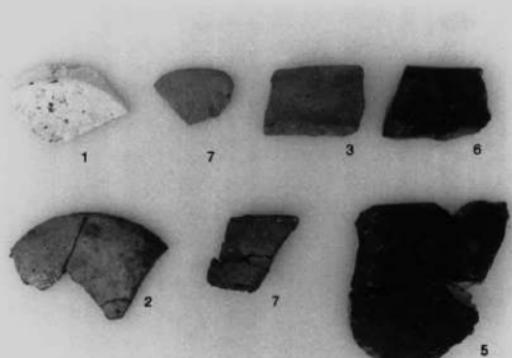
向出遺跡03-3區 出土遺物



向出遗址03-3区 出土遗物



箱作今池遺跡04-2区 出土遺物



田山東遺跡03-2区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XX

2005年3月

発行：阪南市教育委員会生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：南海印刷
和歌山県那賀郡岩出町山545